



お仏壇の名称と使い方

●お仏膳
みほとけ、ご先祖さまに精進料理をお供えするときに使うものです。お供えは生きている人と同じように真心こめて、お給仕致します。



※地方により並べ方が異なる場合がございます。



あなたのお家のお仏壇は
正しい飾り方が
なされてますか
右の写真と
照らし合せて
正しい飾り方を心がけましょう。

①ご本尊 (ごほんぞん)

曹洞宗のご本尊は釈迦牟尼仏です。ただし、釈迦牟尼仏を中心に、高祖道元禪師と太祖榮山禪師の両祖を一緒におまつりして「一仏両祖」の三尊仏とする場合もあります。

②脇侍 (わきじ)

ご本尊に向かって右側に高祖道元禪師のお掛軸、または木像をおまつりします。

③脇侍 (わきじ)

ご本尊に向かって左側に太祖榮山禪師のお掛軸、または木像をおまつりします。

④吊灯籠 (つりとうろう)

お宮殿の両側に1対するし、ご本尊のお姿を明るく照らすために用います。

⑤瓔珞 (ようらく)

仏像の頸(くび)や腕、ひじ、脚などを飾る珠玉や貴金属で編んだ装身具のことですが、宮殿の装身具として使われます。省略されることもあります。

⑥仏器 (ぶつき)

お仏飯を盛る器をいいます。朝のおつとめの後にお供えし、正午にはお下げいたします。普段は一つでよいが、丁寧な場合は三つまでお供えます。

⑦茶湯器 (ちやとうき)

お茶、お湯、お水をお供えする器で、普段は一つでよいが、丁寧な場合は三つまでお供えします。

⑧打敷 (うちしき)

装飾用の長方形の織物です。昔お釈迦様のお座所を飾ったといわれています。お正月・お盆・彼岸・年忌法要などの重い法要の時のみ用います。

⑨高坏 (たかづき)

ご仏前の左右においてお菓子や果物をお供えします。足の高いお皿にあたるものです。

⑩五具足 (ごくそく) または三具足 (みつくそく)

燭台・花瓶・香炉のことを三具足と呼びます。五具足の場合は燭台・花瓶が1対ずつになります。

イ 燭台 (しょくたい)

ローソク立のことです。正式には1対でお飾りします。ローソクの光は、如来の智慧の光を象徴するものです。ローソクの光に、すべての人の心の闇を照らし出し、救済しようとはたらきかけておられる如来の心を感じたいものです。

ロ 花瓶 (かひん)

花瓶は、古来インドで香水を入れるのに用いた宝瓶をかたどっており、生花または金蓮華をお飾りします。

ハ 五香炉 (たまごろう)

香をたく器です。

⑪香盒 (こうごう)

お香を入れる入れ物です。

⑫お位牌 (おいはい)

お位牌は、亡くなった人の戒名(かいみょう)や死亡年月日を記して、お仏壇におまつりする、いわば個人のシンボル(象徴)に当たるものです。白木の野位牌は、四十九日まで塗りの本位牌をつくり、忌明けからは本位牌をお仏壇におまつりします。五十回忌が過ぎたら祖霊に合祀されるといわれます。本位牌を新たにお仏壇におまつりする時は、開眼法要(かいげんほつぎょう)と行って、

お寺のお坊さまに入魂のお経をあげていただきます。

⑬過去帳 (かこちょう) ・ 過去帳台 (かこちょうだい)

過去帳は、亡くなった人の戒名(かいみょう)や俗名・死亡年月日などを記しておく記録帳です。

⑭靈膳 (れいぜん)

法要などで一汁三菜の精進料理を仏さま・ご先祖さまにお供えするときに使うものです。靈膳は料理を盛り付けましたら仏前に箸が向く様にお膳をまわしてお供えします。靈膳は法事・命日・盆・彼岸・お正月などに供えます。

⑮前香炉 (まえこうろう)

お線香立のことです。お線香は、仏様の前に出るときに心身とも清浄にするためのものです。少量でも、良質のものを使いましょう。

⑯鐘 (りん)

チーンと打ちならすカネの音は八万四千のほとけの世界に届きます様にと念を込めて鳴らします。また人々の邪念を払うと共に、読経の時に打つ事が指示されている重要な荘厳具であります。

⑰撥 (ばち)

鐘を打つ棒で、おつとめの時以外は鐘の中に正面を向けておきます。

⑱鐘台 (りんだい)

鐘を置く台を鐘台といえます。

⑲木魚 (もくぎょ)

木魚は、読経用の打楽器です。表面に玉鱗(一身二頭の竜頭)を彫ってあります。魚は常に目を開けているので、それにちなみ怠惰をいましめるために魚板を叩いたことから、変形して木魚になりました。

⑳経机 (きょうつくえ)

お経の本や香炉あるいは鐘を置く机のことです。

お仏壇の飾り方は、お仏壇の形式・サイズ・お仏具の種類及び地方の習慣により異なる事があります。必ず当店にお問合せ下さい。